

〔派遣〕

派遣研究者 埼玉大学大学院 理工学研究科 情報数理科学専攻 博士後期課程3年 松本 倫子 1062004
研究集会名 ACM 21st Annual Symposium on Applied Computing
(ACM : Association of Computing Machinery)
出張期間 平成18年4月21日 ~ 230日
開催場所 フランス国 ディジョン市
発表論文 Cooperative Active Contour Model and Its Application to Remote sensing

概要

本会議は、情報技術分野で最も評価の高い国際学会ACMが組織する国際会議で、20年以上の歴史があり高レベルで定評があります。大きな特徴としては、特定分野に絞った会議ではなく、総合的な複数分野に跨るセッション(今回は、38セッション)で構成され、研究者が一堂に会することが挙げられます。今回、927本の論文提出に対し厳密な審査の結果300本の論文が受理(採択率32.4%)されました。

我々の論文(ポスターセッション)は、分散人工知能の分野で盛んに研究されている分散協調システムを画像の領域分散の一手法である動的輪郭モデルSnakeに導入したものです。多くの研究者とディスカッションができ、またセッションチェアマンからは「興味深い研究だ」との言葉をいただくなど、反応はおしなべて好評で、非常に有意義な発表となりました。今後の展開へ参考となるアドバイスも多数あり、十分な手ごたえと共に、本研究がどのような発展を見込めるかといった意味でも多くの可能性が見えてきた大変充実した会議であったと感じています。

私自身国際会議への出席は初めての経験でしたが、世界の多くの研究者の持つ情熱に触れ、大いに勇気付けられましたし、またディスカッションを通して知り合うこともできました。私個人としても非常に大きな飛躍であり、今後の自身の成長にとって貴重な機会となりました。今回の発表を通して学んだことを糧に頑張ります。